

### 東印度の貿易

東印度は面積も廣く、人口も多く、資源も豊富であるから、南方圈諸國中では貿易額も最

も多く、昭和十五年には輸出入合計十三億ギルダで、邦貨に直して約三十億圓である。植民地としては甚だ多い貿易額である。しかも連年出超で、輸出は輸入より四、五割も多く、年によつては二倍ほどにもなつて居り、之を見ても、東印度が和蘭にとり如何に利益の多い所有物であり、又如何に搾取してゐたかと判るわけである。多數の和蘭人が此の搾取によつて生活してゐたので、或は事業利益を取り、或は多數の官吏が東印度で多額の給料を得て本國へ送金するなど、之等は凡て東印度貿易の出超によつて支辨されてゐたのである。

174. 東印度の貿易額累年 (單位 百萬盾)

	輸出	輸入	計	差引	出超
昭和 5	1 152.8	830.4	1 983.2		322.4
6	742.9	545.0	1 287.9		197.9
7	538.0	368.7	906.7		169.3
8	465.6	318.1	783.7		147.5
9	485.8	286.2	772.0		199.6
10	443.8	273.6	717.4		170.2
11	430.1	281.6	711.7		248.5
12	949.7	496.9	1 446.6		452.8
13	655.7	478.2	1 133.9		177.5
14	799.6	469.4	1 269.0		270.2
15	873.4	444.3	1 317.7		429.1

東印度は佛仰などは異なり嘗ては可なり自由主義的な貿易政策が採られ、その爲に日本品なども相當進出し得たのであつたが、昭和五年の世界不況以來護膜價格が暴落して大打撃を蒙り、他方日本品が爲替安に乗じて大量に輸入されるに及んで、從來の自由主義を捨て、保護政策に轉じ、日本品の壓迫を始めたので、再三の日蘭會商となつたが、不調に終つたことは周知の通りである。

東印度は馬來と共に世界的の護膜及び錫の產地であり、亦東亞に於ける最大の石油産出國でもあるので、此の三者で輸出總額の六二%を占めてゐる。護膜及び錫の輸出は特に近年増加顯

175. 東印度の輸入品種別 (單位 百萬盾)

	昭和11	12	13	14	15
動植物.....	0.2	0.2	0.3	0.2	0.1
食料品、嗜好品.....	60.2	77.8	88.8	86.8	67.0
動植物製品.....	3.1	5.4	5.0	4.8	4.6
鐵産物.....	7.5	10.4	12.9	12.7	15.1
化學藥品.....	27.7	44.7	41.6	49.4	52.4
陶磁器.....	2.4	4.0	3.6	3.8	3.4
硝子及同製品.....	3.4	5.8	5.5	4.8	5.2
木材及同製品.....	3.1	5.4	6.3	4.0	9.4
皮革及同製品.....	2.3	3.9	3.8	3.2	2.5
絲布類.....	84.9	157.6	120.6	123.1	120.5
紙及同製品.....	11.2	18.3	16.4	16.4	20.5
金屬(除金、銀).....	27.1	63.6	58.2	59.2	73.0
車輛、船舶.....	13.6	27.3	40.5	33.3	24.4
機械器具.....	28.7	57.3	66.6	61.3	40.7

位で、次いで和蘭本國、馬來、獨、英、米の順であつた。然るに日本に對し差別待遇を行ふ様になつてから輸入では和蘭が第一位、日本は第二位となつたが、昭和十五年歐洲戰爭勃發後は、米國が第一位、次いで日本、和蘭の順となり、又輸出に於ても米國の取引額は飛躍的に増加して第一位となり、此處に米國依存の姿は甚だ明瞭となるに至つたのである。昭和十六年の貿易は詳にし得ないが、輸出入とも米國が壓倒的に多くなつたのは疑ひなく、恰も米國の屬領たるかの形となつてゐたのであつた。即ち大東亞戰爭直前までは米國は此の豊富なる資源と大なる市場の獨占者であつたわけである。

177. 東印度の國別貿易額 (單位 千盾)

	輸出			輸入		
	昭和13	14	15	昭和13	14	15
日本	21 164	24 788	47 967	71 508	85 108	100 855
米國	89 082	145 405	290 907	60 086	63 704	102 783
和蘭	130 118	106 626	48 099	71 508	96 712	62 177
英國	34 921	34 084	55 180	38 036	33 232	35 971
支那	9 709	9 819	16 099	8 241	10 171	17 306
濠洲	35 977	41 401	37 117	13 262	15 396	16 397
白耳義	5 230	3 507	215	13 232	12 627	14 639
昭南港	108 815	124 388	181 645	38 030	33 466	13 587
獨逸	23 515	14 221	1 841	48 475	41 199	8 887
佛國	11 224	10 877	2 561	9 315	9 248	4 226
香港	13 356	13 437	18 107	6 475	6 697	4 224

著であるが、之は米國の買付貯藏の増加によるものであつた事云ふまでもない。之に次いで砂糖、茶、タバコカ、椰子油、香料、珈琲、カボック等があり、其の他ボーキサイト、ニッケルなどの鑛産物も可なりある。一方輸入では綿布類が最も多く、次いで金屬、食料品及び嗜好品、化學藥品、機械器具等で、このほか車輛及船舶、紙類等も重要輸入品である。

東印度は輸出品に熱帯の特産物があり、また輸入市場としても相當大きいので、歐米諸國とも可なりの取引額があつたが、近年までは輸出では和蘭本國が第一位で、次いで馬來(昭南港)米國、日本の順位であり、輸入では日本が第一

176. 東印度の輸出品種別 (單位 百萬盾)

	昭和11	12	13	14	15
動物性製品	10.8	12.5	8.0	8.4	8.1
護謨	87.8	298.1	135.4	196.5	332.3
藥材、香料	28.8	26.6	30.1	29.1	37.1
珈琲	15.9	26.0	13.7	11.9	7.8
植物性油脂	70.8	104.4	65.7	49.2	29.0
砂糖	34.1	51.1	45.2	78.0	53.1
煙草	37.9	34.8	35.6	26.6	37.3
タバコカ製品	11.8	18.4	9.2	9.9	13.2
茶	42.9	49.1	56.2	57.1	50.4
植物纖維類	16.9	23.4	16.1	19.7	16.2
その他農産物	27.8	37.7	29.1	28.9	29.8
礦油及同製品	97.5	166.6	164.0	159.0	174.7
錫	19.4	29.4	11.9	27.7	36.9
錫鑛	26.7	54.7	21.6	31.6	35.1

東印度の貿易と華僑

東印度の貿易は先づ華僑により始まつた。支那から陶器、織物、紙、藥品、雜貨等を持來り香料、鼈甲、象牙等を持ち歸つた。これ等の東印度物産は廻り廻つて歐洲へも行つた。十六世紀頃の話で、華僑はもとより歐羅巴人よりも早くジャワに渡航して居た。

歐洲と東印度との直接貿易は十七世紀以後で最初は胡椒の輸出から始まつた。初めは葡人、あとでは蘭人が之を行つたが、島民より胡椒を買集める役目は華僑が之に當り、莫大なる利益を得て、當時ジャワで最も裕福なるものは華商であつた。和蘭の統治策は蘭人が直接島民に接しない事を方針としたので、島民との間に立つ仲介者として、蘭人の貿易發展と共に華僑も榮

えた。バタビヤ市の建設なども華僑の勞力と華僑の商業的繁榮に負ふものである。

初めの間は華僑は關稅其他に就き種々の特權を與へられ甚だ優遇されたが、十八世紀に入り、和蘭政府の發展が和蘭人に邪魔になる様になり、和蘭政府の華僑壓迫政策が始つた。其の頂點が一七四〇年の支那人戰爭と云はれて居るもので、華僑は土侯國の應援を得てバタビヤを攻めたが之は失敗に終つた。併し、その後も和蘭政府の華僑壓迫政策は種々の形で行はれたが其の經濟的勢力は依然として今日にまで維持されてゐる。東印度の華僑は歴史が古いだけに、東印度に同化されてゐる者も多いが、過去の壓迫の故に彼等の團結心は相當強い。

ビルマの貿易

ビルマは昭和十二年四月、印度新統治法の結果印度から獨立したので、貿易統計はそれ以後の分が完備してゐる。此處に掲げる昭和五年度以降の累年數字は印度の貿易統計からビルマ分を推計概算したものである。貿易年度は四月より三月に至るもので、貨幣單位は印度のルピー(留比)である。

貿易は連年出超であるが、これはビルマが搾取せられてゐる一證據で、ビルマは印度人から搾取され、更に英國に搾取されて、二重の桎梏の下に居たのである。毎年印度に對して一億數千萬留比其の他の英領諸地に對しても亦一億數千萬留比の出超であつた。

輸出品の大宗は米で、次いで鑛油、金屬及鑛石

178. ビルマの貿易 (單位 千留比)

		輸入	輸出	差引出超
昭和	5/6	283 800	548 800	265 000
	6/7	212 500	447 600	235 100
	7 8	202 900	463 000	260 100
	8 9	178 800	469 300	290 500
	9/10	204 400	507 300	302 900
	10 11	208 300	541 400	333 100
	11/12	247 800	561 000	343 200
	12/13	238 100	504 400	266 300
	13/14	207 778	485 015	277 237
	14/15	251 602	550 555	298 953

外の地方との貿易は微々たるものであつたことが判る。英領地以外の東亞との取引は輸出の五%、輸入の一%に過ぎなかつた。

此處に掲げた諸統計は海路貿易のみで、此の外にビルマには支那及び泰國に對する陸路貿易が從來より多少あつた（輸出約七百萬留比、輸入百數十萬留比）。併し、昭和十四年頃より所謂滇緬ルートによる對重慶援助貿易が大規模に行はれ、之は普通の貿易統計には掲載されないが、昭和十五年四月より十六年三月に至る同ルートの對重慶輸額は一億一千三百九十一萬五千留比に上り、軍需品以外、食料品、衣料品其他有ゆる物資を含み、玩具の如きものでも三千留比に達してゐた。

181. ビルマ貿易相手國別 (單位 千留比)

	輸入			輸出		
	昭和12	13	14	昭和12	13	14
日本	20 914	14 255	20 180	11 531	9 039	21 933
印度	117 058	111 842	139 870	256 901	253 558	330 630
セイロン	731	457	930	29 774	27 118	30 468
馬來	6 149	6 412	6 597	36 896	33 931	30 759
支那	483	522	1 177	2 650	2 052	4 318
香港	2 761	3 036	3 584	4 942	2 442	1 274
東印度	633	396	1 145	4 474	6 796	3 818
米國	10 331	7 408	14 665	1 068	803	5 414
英國	47 918	39 110	43 250	85 254	61 655	72 656
南阿魯邦	453	587	135	2 924	2 429	3 453
加奈陀	—	234	195	—	1 530	2 366
イラン	4 628	3 153	4 060	—	—	—
獨逸	7 830	4 825	7 206	19 206	18 475	7 206

179. ビルマの輸入 (單位 千留比)

	昭和13	14
綿製品	35 854	58 635
金屬及鑽石	15 342	20 296
黃麻及同製品	14 005	18 751
食料品	12 777	13 992
機械類	11 769	13 749
油類	10 890	13 325
煙草	8 864	9 367
原綿・綿絲及屑	7 405	8 056
金物類	4 550	5 982
石炭	5 596	4 981
穀類・豆・穀粉	5 247	4 471
魚類	4 441	4 363
計(其他共)	207 778	251 602

木材等で、此の四項目で輸出總額の約四割を占めてゐる。輸入品は綿製品を大宗とし其他各種の生活資料、工業製品に及び、又鐵鋼、黃麻及同製品(米の包装用)も相當多額になつてゐる。

貿易相手國は輸出入とも印度が最大で、總額の五割以上を占める。即ち經濟的に印度と不可離の關係にあつた事を示してゐる。印度に英本國及び其他英國屬領との貿易を加へると、輸出の八五%、輸入の七四%となり、それ

190. ビルマの輸出 (單位 千留比)

	昭和13	14
米	109 760	151 244
鐵油	103 435	117 374
パラフィン及蠟燭	17 893	26 026
タングステン鑽	20 410	23 802
木材	23 559	22 847
鉛塊	22 598	20 475
雜穀及製粉	7 975	12 741
チーク材	10 248	10 970
棉花	7 319	10 049
錫鑽	5 146	7 047
錫鑽	11 485	6 324
謨謨	5 051	3 301
計(其他共)	485 015	550 555

ボルネオの貿易

ボルネオの舊英領であつた北側部分は三つの行政區劃に分れて居た。英領北ボルネオは純然たる英領地で、總督が居たが、此の總督は英領北ボルネオ勅許會社の最高機關たる本國重役會が植民大臣の承認を得て任命する制度であつた。但し外交關係に就いては海峽植民地總督の指揮下にあつた。ブルネイはサルタンが統治し、海峽植民地總督の直接の監督下にあつたが、サルタンは全くの空名に近く、英國の任命した理事官が行政を獨裁し、英領植民地と實際は何等變らぬものであつた。サラワクはラジャ（國王）の統治する英國の被保護

182. 北ボルネオの貿易 (單位 千海峽弗)

輸入	昭和13	14	輸出	昭和13	14
米	1214	1090	生護謨	4738	8055
食料品	702	803	木材	2177	2436
織物類	668	733	乾鹽魚	507	531
金屬器	453	458	カツチ	271	471
煙草	455	446	コブラ	407	359
雜貨	353	372	藥材	165	327
砂糖	205	283	煙草	459	289
燈油	167	205	ダマール	74	76
計(其他共)	6212	6500	計(其他共)	9525	13453

國で海峽植民地總督の管轄下にあつた。但しラジャを補佐する國務會議、國會等があつて、純然たる植民地に比べ稍獨立國の體裁を具へて居た。經濟的にはサラワクが最も發達し、北ボルネオが之に次ぎ、ブルネイは最も遅れてゐる。従つて貿易額の多寡も此の順位であつた。大體に於て新嘉坡の經濟的勢力範圍に屬し、輸出入とも新嘉坡港と行ふものが多かつた。

北ボルネオは護謨栽培と木材伐採が主たる産業で、輸出品も此等の産物が主たるものである。その外にカツチ（マングローブ樹より採るタンニン劑）コブラ、ダマール（天然樹脂）等が主たる輸出品である。ブルネイは石油が主たる産物で、之

183. ブルネイの貿易 (單位 千海峽弗)

輸入	昭和12	13	輸出	昭和12	13
米	181	194	原油	3874	5513
煙草	95	104	生ゴム	1241	624
石油	95	94	カツチ	212	152
染綿布	101	91	天然瓦斯	105	146
機械	109	154	サゴ粉	28	13
砂糖	61	65	乾蝦	9	11
煉乳	34	37	ゼルトン	68	82
計(其他共)	2516	2822	計(其他共)	5595	6580

カツチはマングローブ樹より採るタンニン劑、サゴ粉はサゴ椰子の澱粉、ゼルトン jelutong はゴムの一種。

は全部原油のまゝサラワクへパイプ輸送し、サラワク産原油と共に精製輸出されるものである。故にブルネイは石油の産地でありながら、一方に石油製品の輸入があるわけである。ブルネイの輸出表にあるゼルトンはサラワクにも、北ボルネオにも産するものだが、廣義のゴムの一種で、普通の護謨に類似した性状を持ち、護謨の増量劑、混和劑又は代用品として使用され、チューインガム、塗料等にも使はれる。サラワクも石油を多く産するが（ミリ、ルトンの油田）、亦生護謨の産額も他の二地域より多い。次に此等三地方の輸入は生活用品の殆ど全般に亘り、主食料たる米も大部分輸入に仰ぐ現狀である。

184. サラワクの貿易 (單位 千海峽弗)

輸入	昭和13	14	輸出	昭和13	14
原油	5 654	6 525	生ゴム	7 969	15 385
鐵及鋼	2 543	2 494	重油	6 449	5 645
米	2 269	2 385	ガソリン	3 105	3 872
煙草	1 356	1 565	燈油	1 435	1 189
綿織物	651	1 105	金	1 113	1 141
砂糖	481	499	サゴ澱粉	571	1 572
雜貨	556	794	胡椒	610	693
機械類	366	688	鐵器類	950	565
燈油	457	515	カツチ	436	507
煉乳類	410	499	ゼルトン	682	386
計(其他共)	22 372	26 173	計(其他共)	26 135	34 780

太平洋諸島の貿易

太平洋諸島といふ名の下に此處には各項目に洩れたる地域の貿易を一括して掲げる。これ等の中には甚だ小さい島もあるが、又パプア島の舊英領部分の如き大きな面積のものも含んでゐる。併し面積は大きくとも貿易額は小さく、又其の内容も簡單で、特掲項目とするに値しないものをまとめたのである。

太平洋の小島は各國が之を領有した動機は大抵燐鑛石か又はコブラを産するが爲であつた（航空基地と云ふ如き考へ方は僅に此處數年來のことである）。故に其の輸出品もコブラと燐鑛石が主たる

185. 地域別貿易價額 (年次昭和)

	年次	單位	輸出	輸入
グワム	11/12	千弗	215	774
チモール(葡)	8	千バタカス	734	1 140
ニューギニア(英)	11/12	千磅	524	452
パプア(濠委任)	12/13	ク	2 980	1 611
ソロモン諸島	11/12	ク	331	191
ナウル島	12	ク	514	144
ギルバート及エリス島(英)	11/12	ク	450	199
ニウヘブライズ諸島	12	ク	149	153
フィジー諸島	13	ク	2 535	1 675
サモア諸島	12	千弗	115	217
西サモア諸島	12	千磅	352	268
タヒチ(佛)	11	千法	39	37
トンガ諸島	12	千磅	165	137
ノウフオーク島	12/13	ク	12	32

もので、中には多少の護謨や珈琲や金屬鑛石などを輸出するものがあるに過ぎぬ。従つて輸入品は各種の生活用品や生産用具の全般に亘るが、人口も少いから輸入額も少く、大抵の國は輸出超過である。但し、グワム島の如きは近年の軍備強化のため著しい入超を示してゐる。その外にも軍事施設増強のため、一時的に入超の處もあるが、原則としては利益搾取が領有の目的であるから、出超を常態とする。殊にパプア島の如きが相當の出超を見せてゐるのは、英國が産業開發のために殆ど努力してゐなかつた事を示すものである。此處に掲げた十四地方の輸出額總計は之を邦貨に換算合計すると大約八千萬圓程である。

186. 主要輸出品 (單位 千噸)

	昭和12	13	14
佛領諸島	20.0	20.7	23.1
ギルバート及エリス島	5.2	4.9	...
フィジー諸島	30.5	34.0	...
ニューギニヤ(英)	77.6	74.4	...
ニウヘブライズ	11.9	11.6	...
ソロモン	23.3	22.9	...
西サモア	13.5	11.4	12.7
パプア(濠委任)	13.8	11.4	9.5
トンガ	12.5	12.6	...
護謨(濠パプア)	1.1	1.3	1.3
磷	163.2	112.9	160.7
鑛石	700.0	854.5	955.0
大洋島(英)	399.3	312.3	325.5
珈琲(ニウヘブライズ)	0.44	0.63	0.75

印度の貿易

印度は英國の植民地搾取の最も典型的なものと云つてよく、本國の原料供給地として總てを原始産業の姿のまゝに存続を強制したがため最近特別の事情によつて擡頭した製鐵業以外は僅かに輕工業があるのみである。従つて貿易も輸出は棉花、紅茶、黄麻をはじめ殆んど農産物及同製品に限られ、輸入は機械、車輛其他工業生産品が多い。貿易が連年出超であるのは、それだけ印度自身が富むわけでは決してなく、その差額は他方に貿易外決済により、事業利益、利子等の形に於て英國へ持去られてゐるのである。

187. 印度の貿易 (單位 百萬留比)

	輸入	輸出		差引
		總額	自國品	
昭和 6/7	1 264	1 605	1 559	341
7/8	1 326	1 355	1 323	29
8/9	1 154	1 497	1 463	343
9/10	1 323	1 552	1 512	229
10/11	1 344	1 643	1 605	299
11/12	1 252	2 024	1 961	772
12/13	1 738	1 892	1 809	153
13/14	1 523	1 696	1 628	173
14/15	1 651	2 136	2 040	485
15/16	1 568	1 987	1 862	419

12/13 年度以降はビルマを除く。

昭十五—十六年度に於ては相當の物價騰貴があつたに拘らず、輸出入とも前年度より減じてゐるのは歐洲戦争による輸送難のためで、此の關係は大東亞戦争以來著しく、昨今では歐米との貿易は杜絶状態にあるものと思はれるが、其の後の數字は發表されない。

印度の輸出の大宗は黄麻及び黄麻製品（ガシニー袋及びヘシアン布）で、輸出總額の約三分の一を占める。之に次ぐものは棉花又は紅茶であるが、棉花は近年國內紡績業の發達により輸出減退の傾向にあり、紅茶は英國を主たる仕向地として輸出額漸増の傾向であるが、今後の政治的動向によつては斯かる産業は縮少せねばなるまい。併し、黄麻を始め、棉花、羊毛、皮革、鐵、綿絲布等は東亞に於て十分利用の途のあるものである。

輸入品中金額の最も多いのは石油類で、之は住民の燈火用も相當多いのだが、近年は自動車其他の發動機燃料も著増してゐる。特に昭和十五—十六年度に於ては石油輸入額の數字を軍事的考慮から發表してゐないので、油類各種合計の數字を掲げたが、前年度に於ては鑛油以外の油類輸入額は二十萬留比に過ぎなかつたから、十五—十六年度の油類合計數字も殆ど全部石油と見てよいもので、此の激増は戦争に備へるためのものであつたと考ふ

189. 印度の輸出 (單位 百萬留比)

	昭和11/12	12/13	13/14	14/15	15/16
穀類、豆類 穀粉……	135.8	128.5	77.4	50.9	59.2
紅茶……………	200.4	243.8	234.0	263.1	277.3
煙草……………	9.1	17.9	25.9	25.3	28.8
生皮類……………	67.4	64.5	38.4	41.1	31.4
採油用種子……………	184.7	141.8	150.9	119.0	100.5
棉花……………	444.1	290.3	238.0	310.4	244.6
黄麻……………	147.7	147.2	133.5	198.3	78.5
羊毛……………	28.6	26.5	29.9	32.2	16.4
鞣皮……………	62.5	70.2	47.6	77.0	59.9
綿絲布……………	37.8	92.9	71.2	85.8	164.9
黄麻製品……………	275.6	285.4	257.6	487.2	454.1
鉄鐵……………	12.9	26.0	25.6		
計(其他共)……………	1 961.2	1 809.2	1 627.7	2 035.9	1 862.3

昭十五—十六年度に於ては相當の物價騰貴があつたに拘らず、輸出入とも前年度より減じてゐるのは歐洲戦争による輸送難のためで、此の關係は大東亞戦争以來著しく、昨今では歐米との貿易は杜絶状態にあるものと思はれるが、其の後の數字は發表されない。

印度の輸出の大宗は黄麻及び黄麻製品（ガシニー袋及びヘシアン布）で、輸出總額の約三分の一を占める。之に次ぐものは棉花又は紅茶であるが、棉花は近年國內紡績業の發達により輸出減退の傾向にあり、紅茶は英國を主たる仕向地として輸出額漸増の傾向であるが、今後の政治的動向によつては斯かる産業は縮少せねばなるまい。併し、黄麻を始め、棉花、羊毛、皮革、鐵、綿絲布等は東亞に於て十分利用の途のあるものである。

188. 印度の輸入 (單位 百萬留比)

	昭和11/12	12/13	13/14	14/15	15/16
穀類、豆類、穀粉……	…	..	137.6	218.1	143.9
内 米……………	(5.4)	(141.9)	(113.7)	(178.5)	(…)
砂糖……………	3.7	2.1	1.5	31.2	3.6
鑛油……………	59.2	174.5	146.7	186.2*	208.5
棉花……………	58.5	121.3	85.1	80.5	94.7
綿絲布……………	174.8	155.5	141.5	140.5	113.5
化學品及醫藥……………	47.9	56.9	52.7	75.0	80.7
染料……………	26.1	34.2	26.1	46.7	63.7
紙類……………	28.6	40.0	32.5	41.1	45.1
鐵鋼……………	51.0	66.6	58.3	60.7	68.1
機械類……………	147.8	179.9	190.5	153.7	118.4
電氣機械器具……………	30.4	34.7	40.1	28.7	24.9
車輛類……………	65.8	89.2	66.8	68.7	68.2
計(其他共)……………	1 252.4	1 737.8	1 523.4	1 650.8	1 567.9

\* 油脂類合計額(本文参照)



セイロン島の紅茶産額は世界の約四分の一を占め、同島産業の大宗であり、又主要輸出品でもある。其の仕向地は殆ど全部英國であつた。その外に、コブラ、椰子油、椰子繊維、ゴム、肉桂、シ

セイロン島は地理的には印度の屬島であるが、政治的には直轄植民地で、印度と全く分離し、貿易統計も亦別個になつてゐる。歐亞航路の要港コロンボを擁し、印度洋に於ける交通の要衝に當つてゐるため、經濟的には印度洋沿岸の諸地方に對する貿易の仲繼地としても甚だ重要な役目を持つてゐる。

セイロンの貿易

192. セイロンの貿易相手國 (單位 千ルピー)

	昭和13	14	
輸出	英本國	141 502	150 910
	印度	9 107	10 703
	濠洲	10 872	9 808
	加奈陀	9 187	11 843
	日本	1 245	2 438
	米國	33 219	60 280
輸入	英本國	48 624	45 034
	印度	51 274	52 155
	濠洲	6 121	6 142
	加奈陀	—	—
	日本	15 405	14 162
	米國	5 107	5 960

191. セイロンの貿易累年 (單位 千ルピー)

	輸出	輸入
昭和 5	302 133	322 972
6	218 343	233 129
7	196 049	188 837
8	184 498	177 297
9	246 607	217 089
10	236 363	227 501
11	253 061	214 338
12	331 607	242 600
13	284 822	235 529
14	218 106	242 370

べきであらう。印度の穀類輸入も可なり多額となるが、之はビルマ獨立以降はビルマ米の供給が全部貿易上の輸入となつたが爲で、此の穀類輸入額中、米が大半を占める。綿絲布は前にも述べた如く最近は自給が増してゐるため輸入は値上りにも拘らず減つてゐる。

貿易を國別に見ると、英本國及び英國屬領によつて半ば以上を占めてゐる。即ち英帝國ブロックの有力な一地域として本國依存の經濟を強制せられて居たのである。我が國との貿易は從來英國の抑壓政策に拘らず相當の金額に達したが、日本以外の東亞共榮圈諸地方との貿易關係は今までは比較的薄かつた。

190. 印度の貿易國別 (單位 百萬留比)

	輸出			輸入		
	昭和 13/14	14/15	15/16	昭和 13/14	14/15	15/16
英本國	545.5	724.8	649.7	481.3	416.1	359.7
セイロン	50.6	63.7	73.1	10.9	14.6	21.9
ビルマ	101.3	124.0	162.3	227.3	313.8	283.6
南阿聯邦	14.1	30.4	30.3	2.7	6.0	7.9
濠洲	29.5	55.0	73.4	20.4	23.9	24.9
英帝國計(其他共)	847.2	1 141.2	1 166.6	952.2	931.1	897.4
日本	145.8	139.7	—	154.3	192.3	—
獨逸	79.3	28.9	—	128.6	66.9	0.9
白耳義	41.2	32.0	3.2	29.6	25.5	9.4
佛蘭西	58.3	81.1	45.5	13.5	14.4	6.1
支那	16.1	85.0	99.6	15.0	26.2	28.5
米國	133.8	244.2	259.1	114.1	118.6	270.1

トロネラ油等の農産物も輸出する。鑛産物としては特に黒鉛が世界的に有名で、主に日本米國、英國等へ輸出されてゐた。輸入の大宗は綿製品で、英國から三割内外、日本から三割五分内外を輸入してゐた。鐵鋼製品、石炭等は主に英國から、砂糖は印度及東印度から雜貨は主に日本から供給されてゐた。

貿易相手國は印度と同様に英帝國が總額の過半を占め、昭和十三年には五三・三%、同十四年には五〇・三%であつた。しかも英本國の得手勝手な政策により、全經濟を一〇〇%英國依存とされ、住民の主食糧たる米は之をビルマに仰ぎ、自國の生産物は國際市場の影響を蒙ること著しく、農業經濟の脆弱さは辛じて本國の保護政策に手頼つて破綻を免かれる状態であつた。

193. セイロンの主要品種別貿易  
(單位 千ルピー)

	昭和13	14
輸出		
飲食料品及煙草…	185 953	203 784
内紅茶……………	172 421	188 029
原料品及半製品…	76 060	98 901
内コブラ…………	8 783	7 102
椰子油…………	14 057	13 286
ゴム……………	54 275	67 056
計(其他共)……	284 822	328 106
輸入		
飲食料品及煙草…	107 298	114 037
内米……………	54 340	60 534
乾鹽魚……………	9 527	8 032
原料品及半製品…	33 810	37 048
内原油……………	13 343	13 053
完製品……………	94 170	89 640
内鐵鋼及同製品…	8 979	9 935
綿絲及同製品…	16 750	15 095
織物……………	15 300	13 694
礦油……………	10 409	11 275
計(其他共)……	235 529	242 370

額の六割近くを占めてゐる。輸入は各種の工業製品に互り、最近は工業原料も相當に輸入するやうになつてゐる。

濠洲は嘗ては全く農牧の國であつたが、その爲に昭和五年の世界不況に甚しい打撃を蒙つたのでそれ以來國內工業の發達を圖り、従つてそれ等の工業設備の輸入が増大した關係上、從來毎年數億圓の輸出超過を常態とした貿易が近年では出超過が激減し、年によりては輸入超過さへ見るやうになつた。又金、銀、鉛、亜鉛等の金屬類の輸出額も近年増してゐるが、(昭和十三—十四年度の金輸

濠洲の貿易

濠洲の輸出品は牧羊の生産品(羊毛及び羊肉)酪農品及び小麥が大宗で、此の三者で輸出總

194. 濠洲の貿易額累年 (單位 千英國磅)

	輸出	輸入	計	差引出超 △=入超
昭和 6/7	85 348	44 713	130 061	40 636
7/8	96 597	58 014	154 611	38 583
8/9	98 573	60 713	159 286	37 860
9/10	90 225	74 119	164 344	16 106
10/11	108 907	85 253	194 160	23 655
11/12	129 010	92 640	221 650	36 370
12/13	125 379	113 975	239 354	11 404
13/14	121 533	124 390	245 923	△ 2 857
14/15	118 762	115 675	234 437	3 087
15/16	107 445	108 780	216 225	△ 1 335

より供給したのは最初は金塊が主たるものだったが、歐洲戦以來金塊の外に羊毛其他の商品も多量に米國へ仕向けてゐる。而して英國との交通難のため益々多く必要品を米國に仰ぐ様になり最初は經濟的に、後には政治的にも米國の屬領化するに至つたのである。濠洲の貿易統計は輸入は英國磅、輸出は濠洲磅で表示するを常とし、不便であるが、換算すると却つて誤解を伴ふと思ひ、原資料其のまま掲出した。因に近年の相場は英國貨一〇〇磅に對し濠洲貨一二三磅ほどであつた。

196. 濠洲貿易相手國別 (含金銀貿易)

	輸入 (千英國磅)			輸出 (千濠洲磅)		
	昭和 11/12	〃 12/13	〃 13/14	昭和 11/12	〃 12/13	〃 13/14
英本國……	38 560	46 229	40 434	78 827	86 360	68 716
加奈陀……	6 072	8 045	7 724	2 264	2 250	1 994
印度……	2 976	3 077	2 870	1 087	1 104	1 965
新西蘭……	1 543	1 990	2 148	5 686	7 110	6 682
其他英領……	4 196	4 643	7 427	8 117	8 242	7 749
英帝國計……	53 347	63 954	60 603	95 681	105 066	87 106
日本……	4 004	6 349	4 093	9 706	5 900	4 865
支那……	705	618	462	985	807	3 023
東印度……	6 176	7 531	7 120	1 395	1 468	1 380
獨逸……	3 597	4 171	4 055	4 239	4 410	2 647
伊太利……	410	845	685	5 332	2 644	1 211
佛國……	866	965	1 028	7 933	11 056	9 386
白耳義……	783	1 141	982	9 424	5 686	5 547
米國……	12 959	17 759	14 649	18 763	10 860	19 562
計(其他共)	90 535	111 421	99 846	161 557	157 580	140 496

出約千五百萬磅、金屬類輸出約八百萬磅)之が稍もすれは入超にならんとする貿易をカバーする役目を果してゐる。  
濠洲の貿易を國別に見ると、英國依存の度は甚だ強く、英本國及び英屬領との取引は輸入とも各總額の六〇%以上に達してゐる。特に例のオツタワ協定以來此の傾向の強化されたことは云ふまでもないが、此處に看過すべからざることは米國との取引が近年甚だ増加してゐる點である。これは國內工業化のため米國に工業施設を多く仰ぐといふ關係もあるが、又對日恐怖のため防備資材を米國より購入した爲でもある。此の輸入に對して濠洲

195. 濠洲の品目別輸出入額

	昭和9/10	〃10/11	〃11/12	〃12/13	〃13/14
輸出(千濠洲磅)					
羊毛……	39 263	52 339	62 503	46 683	42 629
羊肉……	7 022	6 936	8 269	9 682	11 777
バター……	9 586	9 028	8 802	10 160	12 892
小麥……	11 612	14 051	18 761	20 907	8 735
小麥粉……	4 607	4 520	5 591	6 032	4 540
果實(乾)……	2 165	1 987	2 059	2 682	2 865
〃(生)……	1 822	2 027	1 980	2 054	2 023
輸入(千英國磅)					
自動車……	4 489	5 959	5 807	8 428	6 530
礦油……	4 799	6 051	6 950	8 637	8 698
綿織物……	4 864	4 153	4 414	5 707	4 857
印刷用紙……	1 837	2 032	2 593	2 467	4 277
化學製品……	3 537	4 370	4 515	5 287	5 599
絹及人絹布……	2 902	2 704	2 854	3 397	2 748
木材……	1 356	1 416	1 251	2 038	2 080
ゴム及同製品……	896	1 048	1 674	1 837	1 545

新西蘭の貿易

新西蘭の人口は昭和十三年現在で約百六十八萬人と推算され、同年の貿易は輸出入合計一億一千四百萬磅であるから、人口當り六十八磅（邦貨約九百十八圓）で、國民一人當り貿易額に於て新西蘭は世界最高である。人口の割に産業がよく發達して居ること、其の産業が多く貿易依存のものである事を示してゐる。

濠洲が羊毛第一の國であるに反し、新西蘭は畜産食糧品第一の國である。羊毛の輸出量は濠洲の三分の一に充たないが、羊肉の輸出量は濠洲よりも多く、世界の羊肉輸出量の約半分を占めて居る。新西蘭の氣候は濠洲に比べて濕潤であるから、飼育する綿羊の種類も自ら異なるのである。又畜牛頭数は人口の割に世界で最も多い國で、バター、

197. 新西蘭の貿易額累年  
(單位 千新西蘭磅)

	輸出	輸入	計	差引出超
昭和 6	34 951	26 498	61 449	8 453
7	35 610	24 646	60 256	10 964
8	41 006	25 581	66 587	15 425
9	47 343	31 340	78 683	16 003
10	46 538	36 317	82 855	10 221
11	56 752	44 259	101 011	12 491
12	66 713	56 161	122 874	10 553
13	58 376	55 422	113 798	2 954
14	58 009	49 387	107 396	8 622
15	73 741	48 998	122 739	24 743

チーズ、牛肉の輸出額も多額に上り、バター産額も濠洲に匹敵する量があり、輸出額は濠洲よりも多い。國民の生業は牧畜に片寄つて居るから、輸入品は他の一切の生活資料及び生産財に及んでゐるが、併し食糧生産は畜産以外のものでも大體自給し得る程度には發達してゐる。

貿易を國別に見ると、英國依存の程度は濠洲の場合よりも甚しく、英國國の占める割合は輸出の八七%、輸入の四七%に及び、なほ之に英屬領地をも加へると、輸出の九四%、輸入の七八%となつてゐる。經濟的に米國に依存する割合が多くなつて行く傾向は濠洲の場合の如く判然とは見られなかつたが、併し大東亞戦争後は、英國との交通

198. 新西蘭の品目別輸出入額 (單位 千新西蘭磅)

	昭和12	13	14	15	
輸出	バター.....	16 986	16 520	16 132	18 228
	羊毛.....	19 093	12 185	11 666	16 857
	羊肉.....	11 917	11 176	11 118	13 898
	牛肉.....	1 247	1 553	1 761	3 205
	チーズ.....	5 372	5 935	5 849	1 233
輸入	綿及麻織物.....	1 944	1 498	1 712	2 534
	電氣機械器具.....	3 202	2 849	2 513	2 263
	ガソリン.....	1 586	1 881	2 030	2 145
	砂糖.....	846	601	854	1 378
	絹及人絹織物.....	1 215	953	1 040	1 312
武器火薬類.....	433	516	801	3 019	

布哇の産物として特記に値するのはパイナップルと砂糖で、従つて此の兩品で輸出の九〇%以上を占めてゐる。その他には魚類罐詰、野菜罐詰、皮革等が輸出されるが、僅少の額である。輸入品は食料品を始め、衣料、その他の工業製品など各

が甚だ困難となつたため、米國への依存が強くなつてゐることは當然である。又英本國にとりては新西蘭の畜産食糧品の輸入が困難となつたことは、著しく食糧難を増大してゐる。

新西蘭と我國との貿易は昭和五年我が國より親善使節を派遣した頃より漸く盛んとなり我國は新西蘭の羊毛を相當に買付け、新西蘭は日本より絹織物其他を輸入し、昭和十二年には輸出三百三十三萬磅、輸入百六十三萬磅といふ記録を作つたが、支那事變以來日本に對する感情悪化し、時々ポイコットなども起り、その爲に貿易も次第に細り、遂に今回敵國となつたのである。日本以外の東亞諸國との貿易は元來少なかつた。

布哇の貿易

201. 對米輸出 (單位 千弗)

	昭和12	13
魚類罐詰.....	417	1 608
鳳梨罐詰.....	42 705	24 631
	(252千瓩)	170千瓩)
野菜罐詰.....	171	225
皮革.....	188	124
粗糖.....	62 633	49 733
	(833千瓩)	800千瓩)
精糖.....	942	1 010
	(8.9千瓩)	(9.9千瓩)
糖蜜.....	782	655
鳳梨ヂウス...	16 690	13 217
綿製衣服.....	261	341
計(其他共)	130 138	96 557

200. 布哇の對米貿易 (單位 千弗)

	輸出	輸入
昭和 4	92 703	108 439
5	91 126	100 916
6	86 957	102 738
7	63 630	83 448
8	63 128	92 953
9	69 234	95 830
10	84 553	100 034
11	92 444	127 177
12	130 133	104 303
13	96 557	101 227

が甚だ困難となつたため、米國への依存が強くなつてゐることは當然である。又英本國にとりては新西蘭の畜産食糧品の輸入が困難となつたことは、著しく食糧難を増大してゐる。

新西蘭と我國との貿易は昭和五年我が國より親善使節を派遣した頃より漸く盛んとなり我國は新西蘭の羊毛を相當に買付け、新西蘭は日本より絹織物其他を輸入し、昭和十二年には輸出三百三十三萬磅、輸入百六十三萬磅といふ記録を作つたが、支那事變以來日本に對する感情悪化し、時々ポイコットなども起り、その爲に貿易も次第に細り、遂に今回敵國となつたのである。日本以外の東亞諸國との貿易は元來少なかつた。

199. 新西蘭の國別貿易額 (單位 千新西蘭磅)

	輸出			輸入		
	昭和13	14	15	昭和13	14	15
英國.....	48 899	46 728	64 146	26 894	23 271	23 108
濠洲.....	2 192	2 256	2 166	7 467	6 747	8 227
米國.....	1 447	1 847	2 826	6 651	5 336	5 885
加奈陀.....	1 117	933	1 709	4 845	4 361	2 869
日本.....	593	391	...	1 197	1 033	...
東印度.....	8	8	7	2 150	2 435	2 196
印度.....	137	146	777	555	699	1 403
獨逸.....	886	395	—	1 003	824	—
白耳義.....	363	875	0	438	404	379
佛國.....	1 012	1 579	717	199	214	110

種のものに互るが、米國からの輸入品を假に三分類すると  
 農林水産品……………三四(百萬弗)  
 紡織品……………七(ク)  
 其他の工業藥品……………四〇(ク)  
 となり、住民の生活用品か、建設資材か、然らざれば農業用機械器具、肥料の類が比較的多いのである。  
 日本からの輸入は主として布哇在住日本人の生活用品である。布哇には其の總人口四十一萬人中、約十五萬人の邦人が居たが、特殊品以外は米本國よりの輸入で間に合せてゐた。例へば米穀の如きも需要の大部分は米國の加州産米(日本人の栽培)を使つてゐた。米本國には十數萬人の邦人が居り、各種の産業に従事してゐるから、日本的なものとも雖も米本國から輸入し得たわけである。因みに大東亞戦争前まではホノル、市に百貨店三越が支店を開いて居た。我が國が布哇から輸入するものは、珈琲の昭和十二年四萬圓、十三年一萬圓以外に特記すべきものなく、總額も八九十萬圓に過ぎなかつた。  
 布哇群島はもと一獨立國で、米國への併合は其の當時日本の強硬に抗議した所であり、將來は東亞共榮圈に入る可き土地で、在留邦人の多い事は非常な強味である。

203. 布哇の對日輸入 (單位 千圓) (日本よりの輸出)

	昭和10	11	12	13	14
米……………	244	959	797	368	423
調味料……………	42	23	387	463	372
麥酒……………	118	265	397	380	321
飲食品計(他共) ……	2 488	3 352	4 267	4 085	4 068
賣藥……………	105	138	120	163	152
絹織物……………	230	232	262	218	111
人絹織物……………	46	71	177	271	225
布帛品計(他共) ……	616	827	1 247	1 070	666
衣類及附屬品……………	692	803	971	910	859
書籍雜誌……………	236	217	248	299	246
セメント……………	66	301	183	186	120
陶磁器……………	65	74	106	109	111
計(其他共)……………	7 242	9 299	11 154	9 774	8 626

種のものに互るが、米國からの輸入品を假に三分類すると  
 農林水産品……………三四(百萬弗)  
 紡織品……………七(ク)  
 其他の工業藥品……………四〇(ク)  
 となり、住民の生活用品か、建設資材か、然らざれば農業用機械器具、肥料の類が比較的多いのである。  
 日本からの輸入は主として布哇在住日本人の生活用品である。布哇には其の總人口四十一萬人中、約十五萬人の邦人が居たが、特殊品以外は米本國よりの輸入で間に合せてゐた。例へば米穀の如きも需要の大部分は米國の加州産米(日本人の栽培)を使つてゐた。米本國には十數萬人の邦人が居り、各種の産業に従事してゐるから、日本的なものとも雖も米本國から輸入し得たわけである。因みに大東亞戦争前まではホノル、市に百貨店三越が支店を開いて居た。我が國が布哇から輸入するものは、珈琲の昭和十二年四萬圓、十三年一萬圓以外に特記すべきものなく、總額も八九十萬圓に過ぎなかつた。  
 布哇群島はもと一獨立國で、米國への併合は其の當時日本の強硬に抗議した所であり、將來は東亞共榮圈に入る可き土地で、在留邦人の多い事は非常な強味である。

202. 布哇の對米輸入 (單位 千弗)

	昭和12	13	昭和12	13	
肉製品……………	4 166	5 076	絹製品……………	653	514
牛乳製品……………	2 218	2 274	人絹スフ製品…	599	734
革靴……………	1 095	985	紡織製品計	7 376	6 702
畜産計(他共) ……	10 005	11 046	(他共)		
米……………	2 787	2 689	木材及製品……………	3 406	2 421
小麥粉……………	1 030	771	紙及製品……………	4 337	3 965
飼料……………	1 702	1 642	石油類……………	9 966	10 199
野菜及製品……………	2 220	2 247	其他礦産物……………	2 361	2 444
果實及製品……………	1 733	1 598	鐵、鋼及製品…	12 311	13 583
飲料……………	2 383	2 487	電氣機械器具…	4 648	4 126
農産食料計(他共) ……	14 884	14 650	工業機械器具…	4 533	3 751
ゴム及製品……………	2 160	1 966	農作機械器具…	657	604
煙草……………	2 374	2 972	自動車及部分品	6 035	5 109
非食農産計(他共) ……	5 594	6 049	肥料……………	1 585	1 028
綿製品……………	3 798	3 488	其他化學製品…	4 799	4 717
毛製品……………	974	822	計(其他共) ……	104 303	101 227

ニュー・カレドニアの貿易

ニッケルを始め鑛産が豊富で、輸出は之等の外に僅少の珈琲、コブラ、木材、グアノ等もある。輸入は石炭、石油等製鍊副原料の外に食糧品、衣料、機械器具等である。大東亞戦以來、ドゴール政権が占據してゐるが、もとは我が國へニッケル鑛、鐵鑛等を提供し、亦我が國から硫黃(硫酸原料)等を買つてゐた。輸出入とも大部分は佛本國との取引で、粗ニッケルなども大部分佛國へ輸出した。

204. ニューカレドニアの貿易 (單位 千法)

	輸入	輸出
昭和 7	50 863	43 173
8	57 710	45 634
9	52 379	46 677
10	53 358	54 027
11	59 042	54 873
12	102 622	104 292
13	161 047	148 234
14	188 182	157 635

205. 主要輸入品 (單位 千法)

輸入	昭和13		昭和14		
	昭和13	昭和14	昭和13	昭和14	
石炭	38 987	43 714	粗ニッケル	91 382	96 522
石油	5 541	9 256	ニッケル鑛	5 231	9 237
硫黃	4 719	3 918	クロム鑛	21 626	25 538
米	4 396	6 199	鐵鑛	—	1 257
小麥粉	5 174	5 718	小計	118 239	132 554
衣料	2 568	2 217	農林水産物	29 995	25 078
輸入計 (其他共)	161 047	188 182	輸出計	148 234	157 635

昭和十七年十月五日  
昭和十七年十月十日  
印刷發行

(三〇〇〇部)

出文協承認  
ア 200172

大東亞資源統計  
定價 一圓七十錢  
送料 十二錢

著者兼發行者 白崎 享  
東京市京橋區京橋三ノ一  
兼印刷者 野村 惣吉  
印刷所 野村惣吉  
合資會社 五七堂印刷所  
東京市芝區新橋三ノ一

發行所 東京市京橋區京橋三ノ一 第一相互館  
國勢社

振替東京三三七六番  
電話京橋(56)三三八三番  
出文協會員一一〇〇三三

配給元  
東京市神田區淡路町二ノ九  
日本出版配給株式會社

# 國勢グラフ

## 産業と經濟の解説雜誌

豊富なる圖表と簡明なる統計を以て經濟界及其他一般國勢の動きを平易に解説する月刊雜誌

毎月概要

經濟大勢圖表  
卷頭論文  
大東亞共榮圈資源地圖  
大東亞經濟建設  
大東亞自給力檢討  
(統計と解説)

生産・消費  
交通・物價  
金融・財政  
其他・通商  
科學・統計  
經濟・統計

産業常識欄  
(諸商品製造工程)  
展望  
(産業各部門の)  
新事實解説  
他山の石  
(時事に關する海)  
外論調の抄譯  
定期附録(増大號)  
一月號(列國國勢年鑑)  
四月號(本邦基本統計)  
十月號(世界商品統計)

綴込表紙

昭和十六年合本

定價 一圓五十錢

送料 四十錢

金五十錢

送料十五錢

東京・橋本 第一相互館  
東京・替振 第七番  
社 勢 國

# 商品科學

重要商品百數十種の性質、生産、方法、用途等を科學的、技術的に解説し更に之を綜合する事により、産業機構の科學的基礎を理解せしむるを目的とし、多數の圖版と寫眞を駆使し、平易を旨としたが、必要の場合には相當専門的領域にまで進めてある。普通の商品學や應用理科の本ではなく學術的に偏せず我が産業の最新の實狀に即して説明されて居る。

- 內容目次
- 料氣屬料品類品料品品品料引
  - 製業原脂製 料造製資
  - 燃電金採工加窯油可肥飼食釀織國防索

白崎 享一 共著  
佐久間 哲三郎

A列5判上製  
四七〇頁

# 代用品と再生品

代用品と再生品は時局焦眉の問題であるが、一時的ではなく持たざる國にとつては今後永く全力を擧げて解決せねばならぬ課題である。それは我が産業界に根本的の改革をきたらすであらう。本書は我國の現狀に基き代用品の科學的根據と進むべき方向とを平易懇切に解説したもので、科學的根據のない當意即妙式代用品は除外した。

- 內容目次
- 代用品の沿革
  - 金屬代用品と再生品
  - 石材代用品
  - 液體燃料の代用品
  - 代用バルブと再生品
  - 纖維代用品と再生品
  - 可塑物製の代用品
  - 皮革代用品
  - 肥料代用品
  - 代用食糧品

白崎 享一 共著  
佐久間 哲三郎

B6判上製  
四〇〇頁

東京・橋本 第一相互館  
東京・替振 第七番  
社 勢 國



白崎 享一 著 B6判一二五頁 挿圖百個

## 統計グラフの書き方

定價五十錢 送料八錢

本書は著者が各地の道府廳主催の統計講習會で講義する際に教科書として使用するものである。併し謂義と離れて單獨に此書だけを讀んでも統計グラフの書き方の概略は知り得るやうに書かれて居る。理論は省いて、實際の書き方を主眼としたもので著者が十餘年間毎日統計グラフと親んで來た経験から生まれた書である。統計グラフの應用は最近非常に擴まつて來たが、世上にはまだ隨分多くの誤つた書き方が行はれて居る。本書の普及を望んで已まない所以である。

### 内容目次

統計圖の意義 統計圖の種類 統計圖の幅と高さ 棒の折曲と内訳 面積と内訳 矩形 折形 線圖 表圖 布圖 盛圖 立地圖 統計象圖 物象圖 記算圖 彩色模入 文字の記入 對照數日 點對數日 圖盛布圖圖圖

白崎 享一 著 B6判 紙裝一九二頁

## 統計瑣談

定價五十錢 送料八錢

世間話の統計に 眞向から統計を説く講義ではない。世相を語り、人情を話し冗談を飛ばしながら統計の本質に觸れる多彩な想華を盛つた興味深き隨筆集である。全國に亘る二十餘種の統計雜誌に著者が次々と書いた短文を集めたもので、統計を語りつゝ現はれてゐる、勿論、單なる隨筆ではなかり、地方の統計雜誌は啓蒙機關であるから、これ等に對する啓蒙的なものである。統計初心者に對する啓蒙的なものである。

### 内容目次

南京豆の大きさ 立體 寫眞の男女の區別 統計 計は子供臭いから 統計 計は石と突然變異から 統計 以前と總計以後の重箱 役の隅と首位の二桁 統計 人と會計お祭騒ぎ 人間を金額に見積る話 統計の無視と誤用 統計 統計の吟味 統計 對象の味 統計 苛重計 統計 危機 統計 國際統計 統計の「深み」



